

J A 自己改革推進レポートについて

令和 3 年 4 月 2 6 日
J A 鳥 取 県 中 央 会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取いなばの取り組み

① 第 2 回「星空舞」栽培コンテスト表彰式

3 月 3 日、鳥取県オリジナル米「星空舞」の生産技術向上を図る第 2 回栽培コンテスト(鳥取県産米改良協会主催)の表彰式が、倉吉市越殿町の J A 鳥取中央本所で開催された。

コンテストでは、応募があった令和 2 年産の「星空舞」169 点について、玄米の整粒率や食味値の合計値に加え、目視でも審査された。J A 鳥取いなばからは、個人の部で優秀賞に国岡さん(智頭町)が選ばれた。



② 雪害野菜ハウス援農

J A 鳥取いなばでは「J A 鳥取いなば雪害対策本部」を設置し、再生・復旧に向けての資金対応や資材対応、援農時の人員の調整や確保に努めるなど営農再開を支援した。

3 月 10 日、11 日の 2 日間、積雪により全半壊した農家の野菜ハウス等の撤去作業支援を実施した。同 J A 岩美支店管内の白地と蒲生集落の復旧援農を行い、行政・J A 連合会等を含め約 20 人が参加した。



③ J A 農機 2021 春季ドリームフェア

J A 鳥取いなばは 3 月 6 日、7 日の 2 日間、春季ドリームフェア農機大展示会を鳥取市で開いた。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、延べ 1000 名以上が来場した。

大展示会では、最新モデルの農機の展示やスマート農業機械などの実演を通じて、農作業の効率化や省力化によるコスト低減を提案した。



④ タブレット型検温機 38 ヲ所に設置

J A鳥取いなばは、新型コロナウイルスの長期化を見据え、全事業所にタブレット型検温機(センサー式アルコールスプレー付き)を 38 台設置した。組合員や来店者らに安心して利用してもらうため、2月から順次、設置を進めてきた。

検温機に顔を近づけると表面温度を測定し、手をかざすと感知センサーが反応して消毒液を自動でスプレーする。今後も機器のパネルで検温などを周知し、感染予防に努めていく。



(2) J A鳥取中央の取り組み

① Web 用オリジナル青果物ソング「We Love ドリーム♡ちゅうおう」を制作

J A鳥取中央は3月12日の青果物販売取引 Web 会議の中で、産地の想いを市場に伝えるために、生産部の代表と J A役員とで Web 用オリジナル青果物ソング「We Love ドリーム♡ちゅうおう」を披露した。

Web 用に歌を制作し、生産者と J A役員が市場に向かって歌を発信するのは全国で初の試み。特産物の特長や効能を歌詞に載せて、市場へ向けて産地を P R した。



タイトルの「Love」には同 J A が掲げる経営理念「農業愛、人間愛、中央愛」のうちの“農業愛”の意味を込めている。作詞作曲は、地元湯梨浜町で「歌う講演家」として活躍する石川達之さんに依頼した。

実家が梨農家という石川さんは、「生産者の想いをメロディーや歌詞に乗せて伝わればという思いで制作した」と話した。歌詞にはスイカや梨などの基幹品目の特長や効能を織り交ぜ、語尾には鳥取県の方言を盛り込んだレゲエ調に仕上げた。

同 J A の栗原組合長は「大人から子どもまで多くの人に聞いてもらい実際に食べてもらうことで消費者を元気にしたい。また産地、 J A が元気であることも歌を通して伝えたい」と話した。

② 直売所「三朝おひさま市」がリニューアルオープン

J A鳥取中央女性会三朝支部の出荷者らが運営する農産物直売所「三朝おひさま市」が3月22日、リニューアルオープンした。店内の床や照明器具、外装などを一新し、壁の修繕には県産の木材、店内にあるカフェスペースのテーブル、椅子などには三朝町産の木材を使用し、地元木材の良さを P R している。



当日はリニューアルを記念して、買い物をした来店者 150 名に先着順で花「ルピナス」をプレゼントした。新型コロナウイルス感染拡大

の影響により来訪客が減少した町内への誘客促進、農産物の売り上げ回復の拠点としての機能を目指す。

同JA向井常務は「今後も、賑やかな地域交流の場所として、たくさんの人に利用して頂きたい」と話した。

③ ハウス梨「二十世紀」の交配が順調

琴浦町では3月24日からハウス梨「二十世紀」の交配が始まり、作業は順調に進んでいる。2月から3月にかけての好天で気温が上がり、昨年よりも5日、平年よりも約一週間ほど早い交配開始となった。

同町の琴浦梨生産部の部長を務める岩本さんは、20aでハウス梨「二十世紀」を栽培。人工交配筆を使い、家族と作業員の計7人で作業している。

岩本さんは、「適期に交配することで大きさ、形ともに良い梨ができる。今年もおいしい梨に仕上げるので琴浦の梨を県内外に贈ってもらい多くの人に食べて知ってもらいたい」と意気込みを話した。

同生産部は、28戸が県内で最も多い約5.6haでハウス梨「二十世紀」を栽培している。進物用の梨を「琴浦のおもて梨」として商標登録し、一層のブランド化を進めている。盆前全量出荷に向けて8月上旬の出荷を予定し、京阪神、山陽、県内へ1万6,700箱（1箱10kg）、1億900万円の出荷、販売を目指す。



(3) JA鳥取西部の取り組み

① 栽培講習会の動画配信。インターネットを活用し、さらなる産地振興を目指す

JA鳥取西部は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、3密の回避やイベントの自粛などが求められる中、新たな情報発信や交流のツールとして、インターネットの有効活用に取り組んでいる。

その一つが、管内で注目を集めている特産スイートコーンの栽培講習会の動画配信で、3月6日から組合員専用ページで限定公開している。



② 新デザイン白ネギ出荷箱 労力やコスト軽減へ

白ネギの周年出荷を行うJA鳥取西部は、新しい白ネギ出荷箱を令和3年産春ネギから導入し、3月23日に従来箱から完全に切り替えた。

新しい出荷箱は、側面に白ネギのイラストと「鳥取の白ねぎ」「Sironegi」の文字が並ぶデザインで、春ネギ・夏ネギ・秋冬ネギの統一出荷箱として使用する。出荷箱を統一化することで、労力やコスト軽減につながる。



③ 小水力発電所 2 基の更新工事完了。クリーンな電力供給で S D G s に貢献

J A 鳥取西部は、京葉プラントエンジニアリング（株）との協働事業で所有する老朽化した小水力発電所設備の更新に取り組み、江府町の米沢発電所と伯耆町の溝口発電所が更新を完了し、3 月 12 日と 13 日にそれぞれ竣工式を行った。

同 J A の組合長らが玉串奉奠（ほうてん）などの神事を行い、今後の安全稼働などを祈願した。



（4） J A 全農とつとりの取り組み

BSS ラジオ『おいしいがいっぱい！全農おしごと探検隊』リニューアルスタート

『おいしいがいっぱい！全農おしごと探検隊』が 4 月よりリニューアルスタートした。令和 3 年度は、鳥取の農畜産物をテーマに「お題」を出し、ブームとなっている川柳を募集するリスナー参加型とすることで、より親しみをもっていただきファン拡大につなげる。

放送は、第 1・第 3 火曜日 午後 3 時 20 分～5 分間。継続的な展開とし、毎回の優秀作品の中からその年の最後の放送回で「全農とれたて川柳大賞」を開催し大賞を決定する。加えて、受賞者の電話出演や作品のポスターやカレンダー等販促ツールへの活用を検討し、鳥取県の農畜産物の P R を盛り上げる。

（5） J A 鳥取信連の取り組み

J A バンク 食農教育応援事業による小学生向け補助教材の贈呈

3 月 18 日、鳥取県庁（第 2 庁舎 5 階 教育委員会室）において、食農教育教材本の贈呈式を開催し、本会 入江理事長より鳥取県教育委員会 山本教育長へ「農業とわたしたちのくらし」を贈呈した。

本取り組みは、「J A バンク 食農教育応援事業」の一環として、平成 20 年度より毎年、県下の小学校高学年向けに教材本を贈呈しているもので、DVD も併せて贈呈した。

入江理事長は「令和 3 年度版は、新学習要領に示された『主体的・対話的で深い学び』の趣旨を踏まえた内容となっており、ぜひ教材本を活用いただき、子どもたちが主体的に話し合いながら、農業への理解を深めていただきたい。」と述べた。

山本教育長は、「写真や図表がふんだんに使われていることで、学校現場からも使いやすいとの声を聞く。子どもたちが農業と自分たちの生活とのつながりについて理解を深め、体験学習にも繋げることができる。教材本を活用しながら生産者の想いや苦勞を子どもたちに伝え、食育への取り組みに役立てたい。」と感謝の言葉をいただいた。

令和 3 年度版は、県内 124 校に 5,481 冊の贈呈を予定しており、県内各小学校へは、それぞれの J A から直接、贈呈することとしている。

「農業とわたしたちの暮らし」



(6) JA共済連鳥取の取り組み

令和3年度JA共済地域・農業活性化事業費を活用した地域貢献活動の取り組み

第28回JA全国大会においても掲げられているJA自己改革の実践継続に向け、共済事業においては、JA・連合会による地域貢献活動・地域農業振興の取り組みを展開している。

令和3年度についても、取り組みの継続展開を基本としつつ、新しい生活様式が浸透する環境下もふまえた地域活性化活動による新たなJAファンづくりに取り組みとともに、事業基盤である持続可能な地域社会づくりに貢献するため、「SDGs」目標の達成もふまえた活動に取り組みこととしている。「JA共済 地域・農業活性化促進助成金（新型コロナウイルス対策を含む）」の交付によるJA独自施策を始め、県本部が実施主体となる県域統一施策について、以下の施策を展開・実施していく。

【令和3年度 主な県域統一施策の概要】

県域統一施策	施策概要	実施時期 (予定)
JA公用車ドライブレコーダー寄贈	県下3JAに対して、JA公用車用ドライブレコーダーを寄贈	随時
県への交通安全資材の寄贈	鳥取県交通安全対策協議会に対して、交通事故未然防止資材を寄贈	上期
JAへ子育て支援等にかかる活動資材等の提供	子育て世代（妊婦含む）に対し、各JA支所（店）と連携した育成支援資材等を提供	随時
行政・関係団体と連携した育児支援活動	乳幼児・園児（保護者等を含む）、妊婦等に対し、行政と連携した子育て支援資材等の提供およびイベントの協賛等を実施	随時
県域書道・ポスターコンクール	県下小中学校児童・生徒の応募作品コンクール	10月審査会、 12月表彰式
JA共済むてきカップ 学童軟式野球大会	県下3JA推薦の8チームによる県大会	8月

地域貢献活動のメディアPR	健康、防災、交通安全、くらしを支える地域貢献活動および生活支援にかかる地方新聞、雑誌、テレビ等のメディアPR	随時
地域農業振興にかかるメディアPR	地域農業の振興にかかる広報・啓発のメディアPR	随時
直売所イベント協賛	食のみやこ鳥取が主催する農産物フェアへの協賛	8月
新型コロナウイルス感染症予防対策への支援	県社会福祉協議会等へマスク等の感染予防物資を寄贈	上期

(7) JA鳥取県中央会の取り組み

令和3年度 新規採用職員養成研修会の取り組みについて

JA鳥取県中央会は、令和3年度採用の新規採用職員養成研修会を4月8日、9日（JA鳥取いなば会場）、19日、20日（JA鳥取西部会場）、21日、22日（JA鳥取中央会場）の3会場で開いた。

当初は、令和3年3月にJAグループ鳥取の新規採用者が集合しての研修を予定していたが、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、4月に開催時期を変更して3JAに出向き、グループ全体で41名に出前研修を実施した。



カリキュラムを2日間に短縮し、「JA基礎講座」「日本農業とJA」「認知症サポーター研修」や先輩職員との交流などを盛り込み、新型コロナウイルス感染対策に留意しながら研修を行った。

今後の取り組みとして、10月に新規採用職員フォロー研修会を予定している。

以上